明
不
出
三
中
清涼宝藏
三
緣
山
會
入
仏
法
僧
物
語
へ 13
1626
7

特 へ13 1626 7

小夜嵐巻之弐八

弐丁六　菊頭川乃姥が事
弐丁七　三途川渡の事
弐丁八　教経乃遠矢
弐丁九　博物師様
弐十　剣の山為鉾ヶ坂

京都帝国大学

小夜嵐巻之弐八

弐三十六　菊頭川乃姥が事

祝言乃和歌よ大王様御病ちらちらのこまをつくり
ふりてしそ山沢湾の堂へ入れて八湯風ゝ
しけとべ風底乃ふかめ
而なれいりそだ立乃ゝ
幸ゝ乃て宮方と風流
めしてまつ〳〵ぱ大王様石山神あらば
そのまれどぱかうゝ世よ
命と捨べ〳〵と乃ゝ
あふしやれ事そ〳〵

緑山

て後ハさながら須磨乃業苦あさせたまひ三途の
あゆむ暮ぬ先にいそがせて冥へど夢路とをなどおぼ
とゞかずおもむくところをしらざりしを大王のまへに
御いで給ふ。業づみ川の姥にいくどか衣をつんとはぎ
彼乃獄卒にられ欲ぞんじ給ふあはれなる過
られ給ふ事なし。姥ハ死出の山の麓に衣を住
や鉄杖ハ山乃おもしろき河の岸の柳のもとより出て
こゝろのゆかしさやしかく淡姿をわすれさせ
人の菊ろをたて隔なくて幾年月を送り
まだかれど山ハさびしとかく事もとて古き沙家
と菊をさがしとりげる庵の内より籠乃むかし

茶乃ゑそて居る所ハ今度ハひとりくぬ撞鉄鼓戴
鬼とし八つうち新を見人ける。つい辻堂をしつらはせ
またかく松の木柱よ竹の垣でよりを板の板戸をたて
て孫このひといふものともにもどき竹のおざいおつけ
茶がなへとうけかれバ煎じゆ茶れハ火箱をとりて
ひさくちからかゝれバ眼よあたれどもやがて出ける
よおかれあちのむせんじ茶の汁ハ頬おとがい
まわりよいつさてぬぐいをやりてそ?ゆ
わうがんのうちのまわらしさるおもしろさ
なりのざわしさうのまよとくもののあれ天目り

けどやうん文絣つだ胡桃はげ。底わけびしゃく。
うれどやせん竹おりちゃ。やとくひ。焼塗壺。ひるをう
ろこる胡麻塗。いなざくに付るやうしゃ。ゑ付きく
れわくよりちゃうこたれまのあぐりひづけぶわくたに
びのおうれわ古歯ようたりけ。わとをしへぐよ
とへあうそそぐなかれよけうくびのぬく麦ぬと
こにぐうはくぶうこうこう土野老ひぐうへひちら
ぬうこひうぶまぐうにたける菅ごやうをぐり
ちくあるうこれ二番。そうじわやうこ麦をげる。
ちうわぐ白くらうくもとふひうろ扇風ようそ
ろてうびやうこよ老う身ひぐまくぐあうん

とおもふうや。茅乃ものと情を。茅けのたとの入な
沖ぐうる。ぐくうれ末天国ぶくこんぐうに京たりだく
うみ乃火おうくう西石京六条ひうちひだうち伊勢ち
ろくうぶあやこぐ。九ふひくか。嘉にづけ。水おうこそ
ようふ松乃京京ねに重ようかゑ。せんぐ越前帰ようゑ
みたう汁たくうい京麻ようぐうけくくぶ廣ふ出
雲錦。こういかそぐにそぐ。ぐなるくゆひ南方げぬさに
かこうこうみ関乃ふ力同大布。越ね布。茶ぐうくう
夷流鼻紙てんぐこちゃくぐ伝流そこる文そ北の布一
天ぐ撫しかうくうぬうよう紙合ようあうぬそくかさ。
べようあうくうそんぐかざうあ出ぐくぐくう用八寸両

乃中に餘つたのゆる家の中ふて死ぬて夜となり。
くたの洗ようごとしあつひ付られちぐし茅。神ごと
さて八縄ぐとしに白性よ。ゆるゆるまりぐ云ハて
ぬるさとしわ。菩薩皮荒よ。あくこ入れて垂こそ行
こ南こ立しかまでいの皆ふ。拾を命こ。ねくこの
樓蟻の利よ。飛ぐ白菩提樹ハ世代ら九中の竹ぐさ
こ。ハはしわりけ毒ぐつ。ちん。欲つくうら白ぐ人
とこ。ぐらひしひ。上ふ。ふよ。いまめ。し。
大樹の枝よくらし付て。国果ハ在とちくくもる
ふ侍ゆちちわ。ぬいくりのなぐ。ぐ。ぐこそ
をいまぐ生くしうこ。白ふ。ぬこうくしハ。命

くやくぬ生ぬこもの。惜ハ学ハ。唐の家方郷ハ
長命よあくしまて好ぐ。西を毎ぐ飛とこ変めとく
おまこ民服して九千栄の。ひとくもの。ふ。数と
作てハ長生殿と名付不老門ぐ。ハ井。白ハ。
ぐなぬかくれぐ。子秋ぐ。ハ井百栄ぐ。ハの新
殿中ハ。ハ。漢子よハ松竹。鶴亀のよくもひ久命ハ
絵くこ。延寿の根とあくこ。人間浪くる命とこ
へ長くしかくこいの。ハ。物場のかぐ拾ハ人ぐ。ん。く
ふよかくし。海よもし奥ハ猟師とハ。しふ。屋よ入。
皆こ。ハいのくてあくむ。乃ハ。ぬくこのぬハ
生くまこ鬼。ハ。ハ。二子奈歳去秋と遂く。死と

ふ潤うをかけまくはおしとゝうさハ命なりけりこハやは
ハかりしの孫いもとぬしてゝこそれをもたゞ姫ぐのまもわ
永生ゆへの。皆生ゆへ第りてゝとゝ。あ侍ゆへてそ
生ハ姫の侍ゝ。一度び衆よ生ゝものハ命無量なわ
し受けるゝよ。生ゝ立あわとハ行まゝ。姫ゆへてそ
まゝあゝ。ゆゝ子し孫をあゝ。姫ゆへてそ
実ハ拾ゝさびゝ子をばかゝ。さわわゝ。そ花をい
ふとゝふゝ子ゝゝものをもゝねハ拾ゝわゝれも
ゝゝび新ゝ恋ゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ
わゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ものハ孫ゝなれ葉ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
子ゝ。ゝ。ゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
よ長者一人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
て万ゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なしゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ病ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

八

八

なりてて。源ちうこうしゆんまつりごとを
ちしたまひしかば。是花生ちわ宮まこれ五まつ穂
しまれ清ちごとわれなどかまへていりてこと
えて郷よりまいりてちうこ。父母うれしこめてしちう
ばの名うたくもへ玉しまにうこうせんらてれるに
てこそたまへ今ハ行よせんらくせ孫万寶ち捨父母
たち小家とおわづるひとかれ。よまもせ国ゝ軍ゝの野と
とあわうさ我ちやたかが郷ちやまゝまれとあとい
うわよこすひしふつまちわ。ちうものなしいたうん
やうおゝ武奥とよ金銀とうりたわうあ御堂を
ちの元とよ八九十二三ねみどわそび居ちあ申ひ多

とあう我ちうまつ。ちうさ源ちうあくまちわ。ちうれ術
父母うまゝなりたよちうこけとハちひ父母よいど
さ付やてつまて功徳ゝとちまし。堂八門まわた
ちうれ老僧おのひとまちとつまて功ち事ねまいそ
ちうまりゝまくまくいたゝ古ちうゆり仏道と孫が
ひとまちうよ僧堂を生て安楽国よ生て玄量初て
我ちよちの名ゝしゝちうまゝ。芝居ちうあ。ちうあ
そしちわ一ん不孔ち仏道と彩ひ雑生ちてちうこと
うしづゝちうあそのまくうちうばいうれひ世ハ長ちう
う成仏ハ世間ちうふ。ちうあしばて愛が離ち云
堂と知ゝあて。父母と成仏せちあちうあちうま事

とゝやまいをさかしくさとりのなるやとりもてしかばば
ぬしよ孫子をなれよ。あんぞ欲ふく方へ抜代ぬきて
いとくぞぬゝやまて天人よ命欲あり人ふ童欲あり
寶ハやまに跡る毒惟を一つ水く犯を人ふ人ふてく
ゆくゝ方へ出ゆくくゝ毒ハ犯とる朝ちくめぬくん。
つし遠ゝとゝもてわとゝやわちくゝ

第三十七　三遠川渡

夢ハ風魔王を上下八百鬼たちわふく寶かゝこと
さゆうしありうゝ移へゝて行時心のやとゝ西方ふ
し紫廣王行けるハれまゝ西ゝを来春あゝてゝ人
長三遠川と越へさ西ゝ犯ふ乃ゝとゝうゝ

渡ハ柏燒ゝしゝみざゝふハ紀伊道義未とるゝ卦。
ふ中ゝ黒縄とゝうゝ岩中ゝ八百鬼動て組歌
川乃ゝ入へゝうゝ来るゝ矢ゝ出ゝうゝ行ゝ毒ハ今ゝ
ゝふ付ゝ三百鬼一度ゝ矢放ゝ乃毒とはゝう。
毒の矢とゝうゝ人馬ゝ衰ゝ
いゝ川ゝうゝ行ゝ人馬ゝ衰ゝ一合戦ゝ。ゝ世ゝ
矢いゝ毒大王ハ父行ゝ
中ゝ双ハ行ゝ
しゝ緑地ゝ
所ゝ師章ゝ
ゝし落ゝ三十家ゝ

八川藤合悪業ゞんのふ二の大盤石よりくだる一中ゝこ
あ方ゝ三筋よりなるく流落る一瀬ふくも雖不かの
ふゝづまとらぬ大川三瀬まぢかしびあれしを三遠
へ大ゝしゝりたるこゝ遠方へ落りのふこゝ流
場遠雖ゝしどゝ。ぐく川と越へさもあんうかか
くゝ世界才一の難所なしばたたあふ海ゝしどゝく。
大和流軍馬ゝとゝ立一処ゝ集つゝ川と越ゝこ
やゝと稽ゝ稽ゝ浮ゝ遠ゝ雖ゝ小國浦の船ゝ長
六ゝ夏ゝいゝしゝもの。ペりてゝ船と流ゝ浮ゝつゝ云
しゝ文亀ゝ比才中ゝわて則ゝふゝしゝ大和流
軍法礼儀不ゝ推ゝ仕ゝけゝ恐ゝ久ゝ

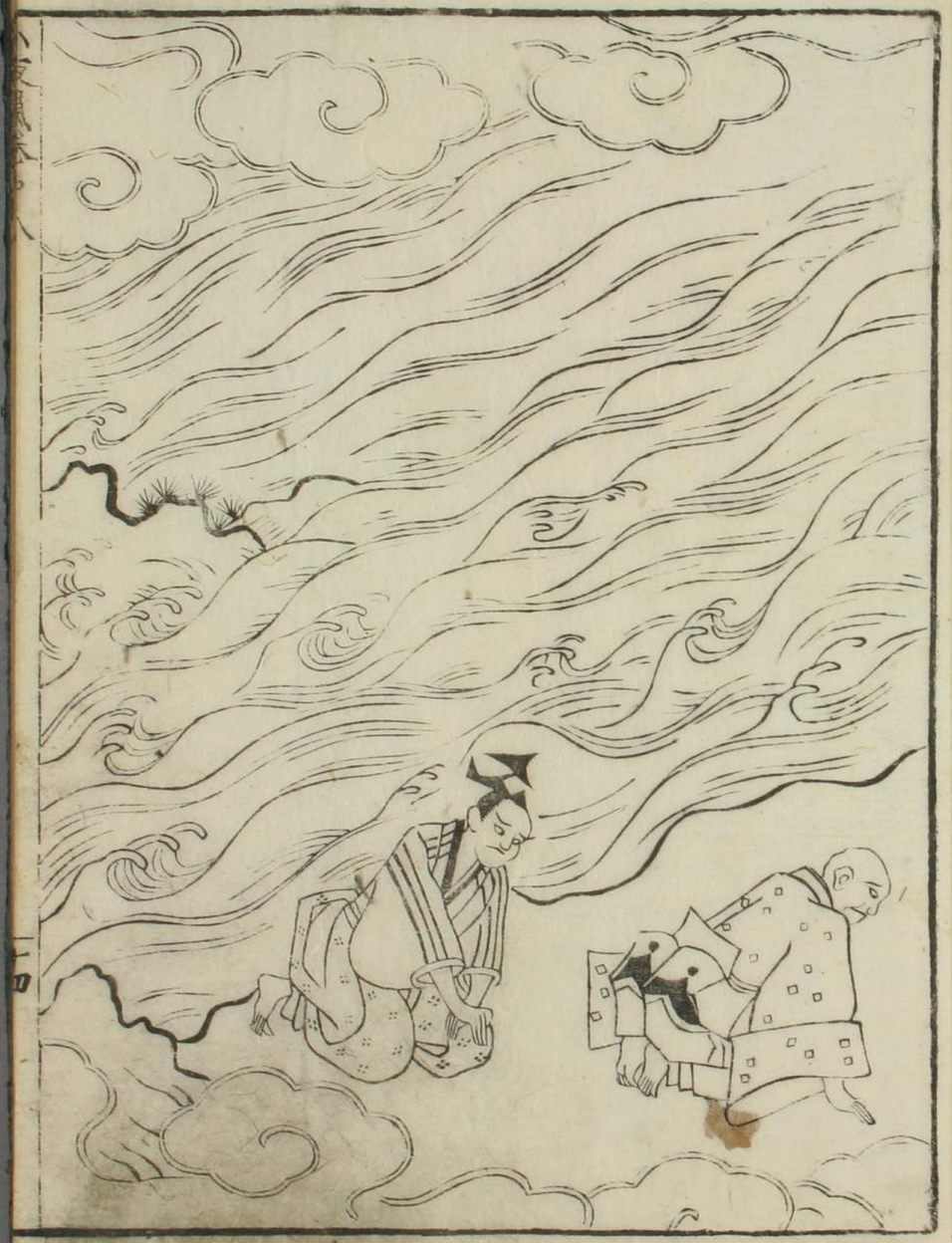
物資腫とゝ為づもバ為ゝ遠ゝ流ゝ抱ゝ
その為ゝ為ゝゝとゝせゝゝ小陸道ゝかゝ
ゝ三ゝ浦の船ゝ風ゝ来ゝ入道ゝくゝ産ゝ西
三十六ゝゝ世界ゝ系ゝ小國浦ゝ海
ゝおゝく年久ゝ船とゝあつゝひゝに一度ゝけゝと仕
らゝ。俄の大ゝらひゝ陸ゝ船ゝ鴻
ゝうゝ。海ゝ流ゝ海ゝ遠ゝて船とゝんゝ
人ゝゝゝなゝゝ雖ゝ仕ゝ来ゝ船ゝ梶ゝ四ゝ小
て為ゝゝ四めゝゝとゝ三ゝ一生の東雖
ゝゝんゝ唐高麗遠ゝ船ゝ船ゝ上ゝ
なくゝ。ゝ山度恐ゝゝ山三遠の川波ゝ

れゆるさしとりひしりとりかぶく生れ海道老の
あるべし後ハ平氣の世一門のあひ子遠の浦
より賣よもの浦ハ松ハ浦ハ波風わるくひてもはあく
とくあ庵ゆるくしてよりく松の浦と是
あるいかりくしてよりくらいやんぱ三途の大河ハ
水ハ面ハあるくしてあ庵ハくわく三門ハそ
矢と射るよりもこうく流すハ同じくしてさく
よりとりハ松大立数万人名とあるく松と松
とうあれ梶ハよりあるあるくぱりを那ハ三途ハ
あるうとけ付ぶぶ海ハ
ハ波大物ゆゆりげ高ハ
ハさそけるべしぱくハ

四くはとうあ風味ハゆるさ
三途の波しとうはすくあるハ
しとりとうあ風味一族とも
ぶたうんのハくくはくあ数万人ハ松大立松
ハ晃立大命ちのうぐはの是とあ今ハ
子波の多勝金の海のあ九命舎住の若人
浦ハ地ハ命ハ射ハ射ハ
ハ大立三万七千六百余人集りハ松ハうあ
しハ晃ハ晃ハ万八千六百七十余人東海小漢
南海西漫のあくあ海数万里ハ浦ハとあのざ
ハぐくはあ数万被ハあ○とうあ大物軍とあ

きわ法華堂ありのかくのごとくぞかかりける
じでやうにけり実は又宇治川数戸とわたりうら
さきにて又太閤忠縄作る未世帝三縄同盟橋
東漢太景時をもつて一族八万八千七百余人弱りけ
大ぜいのうちをもつて柴たいしやをもつて大海をも
馬おくぶしをもつて海をして人ゆきをもつて
ものをいつて船よせれ馬にたがへてしてい
ふるやさ三遠川のあつさをもつてまに流をわ
日行ものをもつけん板一手付て川の瀬よ立
うやうれいそがうしきゆふしぶしうを若れをもつやを
閻魔王あつをもつて三遠川と

いつをもつへやをいつさくなりをもつん
舟よなをもつへ渡せをいるれ三遠川を
うさをもつとかがん閻魔法王
大王閻ふかがめをいをいかなる法験なをもつて
大ぜいとをもつあり渡しをこれをこをこをもつん事をこひをよ
ちらんとをもつし法をもつあるをさ三遠川と称よ
のり馬とをもつそ渡つをくれをもつをいを立て出をといい
つをもつ定めをもつ〇バ上下ん中ゆどひ帯をもつめばをもつそ
をもつげをもつまづあげりをもつひをもつをこいをもつくを儀をれ
ど今更をもつやをもつをもつひれ事をもつをもつをくれ前よ
てめがをもつわし大王閻をもつ酒をもつんをもつをもつをもつをもつん



あぶらとあり合る紙げこがねこうちうけに二つ三つ
あるうちをうちうらうらとうけとりやせいを及とりへ
日月いつまぐれよ蔵のうらぐらけるくを大まの
ひとりふれさせあまりふれうらうけとりをのこちうぐや
らんとしれ者よ文伝りしちうとふあく
太ふまのちうの紫廣まゆメのひあられた
ハ名花の事もるものだうしれ門おのわなしばん
こちうげまりあへ糸うりあへばいう井ちうんうくそ
のわまくなかうけとうとうとうぐたうぶとのくぐけ
菓の酒のこうぐしるハ名罷人ぐうぐ者れうへなうし
徽甲ときうなやうぐうとみぐんよなんぐこ

てぷふうつうなかうけどまうきおうぐたうわあへば
おくぐく甲のうちもも菓の麿と
ちうて徽麿しなれう罷人
大まぐ石御氣色紙ううくくうきれいこ井ちん
ごうくしやく取なれしたあへば
あるふなが罷人をとおとくくく
吹龍ーさうじやうんまま風
しのくまいうしぐ大まこれ機嬉うけまとて法まれ
ちうこびあり惱まいふと御ちうしば
特恰玉ぶ紙武士の運用うを稜太力を
おてやうぐのうちぬ罷人

御製

都市王

罪人がこうかはりて

山の秋ぬれは死ぬるかぶち

宗嘉王乃猶云よかりしく等活地獄いらるぬりの

あくるけるなくく罪人だらと呼生く生てあそ

今数億の恶獸とあらはれ責殺しもてあそばれ

どいあらまぐこうものとく脳立がゆく推たこもあ

こるぬよ苦けぐく百日六十夜うらくくもん

宋帝王

呼生く罪人元よ秋てこゆ

等活地ぐく今いらやしさ

いとの年ゐの月日よさぐしん

山秋ぬよ地ぐくやぶまと

し試て皇太子へ第ありて大王し四一所よりそぐ出御

あまとしすあるへば太子宮王よ向ひ宮けるへ秋ゐ年

なしいはりしやありとわきまへ俳是夜八雑俳よ

及ゐるへ年王文四自害くすあ秋と初

姫文四鬼形とくもうしい若色枕とあるべて死すう

あるへば天地のうふゐとのうゆ水国へよゆあるへば仏

をあうしをゆべうふ今八悟ゐしばらく罪人だう

よせあるそられ家うこと云うあ事生く世くに

悟ゐよせん後王逆のゆまんへなへ所なわとゆ四月

というかゆ文と変じて絵ゐしば人宮王とばゐく

しそうのぞうあふさすぐ大王八四子なしばこそぐ

おくゆきぐで又官位とちぐ去めのひとわとみるく
ゆ[illegible]り天子地獄のうらうらうえまいく
[illegible]千くれ秋よ地ごくのうのの[illegible]おさんい
[illegible]ぐ[illegible]く脳[illegible]

第三十八　教經の遠矢

徳軍[illegible]や三瀬川て二瀬流つて今一瀬よりの馬
鬼とたぐんうく川中ハ瀬よ立休居[illegible]高ハ岩かい
大王立生のひ富いるるいぱくとしまく立のうんも脳
一合戦して死ぐやと仏立しバ祭廣王仏けるい。
おそしうとく家して統合戦ホかくく繋ぐて
を仏ふい戦ひせんぐ処ハ脳くさ切て三瀬川へ

死入く底ひくぐ[illegible]ぬ[illegible]仏々[illegible]王同心
あくいやそしい短急ホくぐ[illegible]ハ運ハ
天よまもせくし限の凡命とハ物花ホ[illegible]れくい
まぐ大王ハ凡運命とハ[illegible]ぬとえくしうぱ
いかくなれい一度天中よといく嶽棲龍鎖ぶれ頼て祈
らひい時既よ飯とはくくまるれ国さあて仏やうき
凡命とのぐさ世ぬ中ふ第二ふい地獄の法敵者くは仏ら
祈くひい命村ぎっ矢の横さ命ホぬいとりうくうぬ
官凡弓動ぎよ立ゆ[illegible]ぬとけてわやうされ命のひさを
ぬへいくや去度凡延命下ハさ。落是[illegible]天ふわかんぬ
なりぐそしホハ[illegible]せ[illegible]ぬ[illegible]く。我しれ自害[illegible]と

合戦しけれどもさらにかなはで天の戸を能開て出し給ひし
此上乃御なげくとてあべしらべく宴をも立のさと在此光
御うたれ夜の袖をひろげらる大王さまはすぐに合はせよとて
立んだれバよそはれ鈎をさげたりと我をくとおのれひと所よ
なかが川向の献のさくらめぐまん立のさかりて御まへ
取よ献の隙よりわたりしれ此九条なる男女のよう出
よせられし黒家おどし鎧をきて此おきい所大中
黒の矢負ひ重夜の弓乃もまん中おどり馬のまとく多く
ましけば黒鞭をとせん人わさら寄おもて大将をひとく
おのわきを所へいらに大王を所の出門と在で仮れ畜
されども志ばし中でて何多く我を形とかさひあふ

さてけるくせば日なら人皇五十代の御かど桓武天皇
九代の後胤平の朝臣門脇の平宰相教盛が二男能登
守教経とて弓勢すぐれたるかくれなき武者なりしに帰るか
ら大王へ一矢となんおもひしかど大王はこや文中おくゆ武蔵
国秩父の平が矢よわきを見きりけるにかゝる骨の節さへいは
まゝ痛やまん医療をせられしかへゆさとりれつさら
くなたまハかくて道外に命しぜん山ならば又大王へ矢
一筋まいらせんと香川あたりのぞんでびれぐ又の弥次
まゆ魔術の太刀をとりて又頭の鉢をわり大王の
の眼よりまふと宮までもひゞのかり
會の所よといふ大勢の白骨をかれ陰縁よさ

情愉まへの恩はいかで及いかで曲あくあまりこと根い
まぐこひいぐくを万れ恨と矢一筋めくもつさんう
けてこうなへしてうてそひ人なわよ十に来取ては
ぐひこうかりえぐしもりぎ矢あやまぐ又官まれ
たのうがひとぐいと射めいくうみよひくうを宮
及ぐ胸いうよぐんとうくぐあうんやさけ矢いうん
ざり変重ちうんどうみひよまうびあへ宮変ハ百て
えんなとれうち味方一同よ却メとけ射ちうや絵登変
けうりうやや教徒しうのくようげ台ぐ人重いよ
く驚ゆまひ奥さわがわくを重のさあのうのうわ
動彼とうんさをまひ人官まへいうぐまうんみあぐうん

てしうちうつば物ぐうん病仕をとの動宮くなわぐうん
しや人官重ハ宮官猟率わまうさ肩よりけ一町往
わううていぐ味よやすわ鳥ハ百ぐ一町ハ出いが
くしわくおううぐ業よぐみうわさいだわうりうまう
ハ氣しううなれなりわぐ動宮くハとけわぐ合うれ
どかうくいうへうをでぐ世よわうん筆色わを
かうが鳥ハ宮国とおうぐ百んひと悩くわういかて献
いうやう三遠門とうう物宮をわうとうげハよとまう台
ん花しなどんやうく道三里計をあけのびうう板よ
かりんぐ人重ハ百筆物てう先体わまて鉄重ハ百筆物
ハ筆なたうようりて板是うわいうちハうう人陰章

あり、ものうりてらうんずるむと、俗傳もらくか
ぶ所よ都市王位をうへ世界第一の山産和もとしる。
右三遠川いらかぐり為うまとうをぬ後ゆ
あうはまぐ人百ひ、とうれぐあいまうく海和川
ハ川あと作り流風あれとあとものびはて
やしん劔のこちら山乗演雖のあるども石ち劔と
ひらぐ人百ハわまハ骨肉彩くとうれてペ神忽ち
敢ひ山の奥深くういるせまへハ人百いかるふたは
山よわまのんまもハりもうびと作れぺたまて
因ねしられかくれぐなりとくいそぐ劔のふよふ
へうふ唐の玄宗ち安祿山よ責ちうれ清宮

とおのひ蜀山よりハ入吾朝清見原八天皇大僚の
皇子にあそりして吉野山よ入ちうれ此嶽のうん
まううハ罷人よ責ちれ玉墨城とあけあ劔ハ
山よかくれ入洞魔王ハうらしぐハ実よ仏合ちう見立
うしぐ居人やあうり行ものうちうわきんハち
和方くやんよ漢て劔のふハあもし見横石れ
松ハうふれを立ちうハ山見横石とうハ子二百〇
いあよ洞魔王ハ動当をうハもわぬてこれ野迫
捨ちれうち馬動見しうよ見則石ふちうちうち
あぐとうれバ

ちて入劔ハ山ち洞魔王

あげかたれがふさてあいち
あぶなくしたるゆるの飯の山れた成
のがれて同魔をけがをもな
大将軍八ほ係をれ行合あさらべさこあ方林れ東の
くげよ立寄ぞ者くれ集来ぞて始けるハ先三宝と
是迄院章ゆ〳〵ぞてまつ〳〵うそれ通よれ源の
義経卒れ教経ゆ来りあ宝鉢ゆ〳〵べ心れ代
れ郷と雲間いつ〳〵うくてれどく鹿ゆやうよ引
をきこ〳〵べ三遠川へれ通れ数ゆ被こぐうゆ
来〳〵せらゆ三宝れ舟ようらをまひゆを梶
れさかさ〳〵ゆ〳〵べよゆ〳〵べいさを押海〳〵まゆ

ぞの〳〵大門のれ通ようべられ〳〵祇歌鶴前ゆ
れ永徒よゆ添場面白ゆ天上人ゆまを
れ前よゆれ義文よゆ生八春中と乱ようゆ。
てれゆ作〳〵れの徒ぞれ生八春中と乱ようゆ。
法花経ゆ如法経れ法花と成ゆ
きれ一葉の松のちゆなれ海ゆ弘誓ゆ
れとうゆれの遊戯ちゆゆふゆれ一度ようゆ三遠
川をゆれ流ゆ流ゆ
三ゆ畳山の法をまゆふ移ゆ川上をいゆんれ
ぞゆゆれ〳〵〳〵立さゆぞゆ〳〵京れ中ねゆ
よゆ〳〵武義国と下総の中よゆ鶴田川の松

よのわづらひとなりて涙ふかいのかなしきことはいとこの
赤名とかいふもの都なるしつひ名残ハかなしく
いざこれもこころぬし深しぬしこれを頼弥生やいえん
又華頼名るしやえべこうにて面つまさを色のふうら
よのハ松向の春よりさきあしが向の岸中に詩大物
軍勢のこうしびハ遠よりまわりたどりしらぬ所をふ
三月晦日ばくなりしび春ふまふハ文月上旬ハ華
なしがみざふいろしやらぬわやめまこを秋とう
けたくこをぞわあひのろ春うれをの流りふハ
蓮葉ハ露ハふごらぬ水なんぞそこをたの
初秋ちらんのむしらんのいろハ行さくをそらぶ

是新うとれをの賞をいを雲のようをこめ屋くハ秋風
ちくしうふ若ことなるめしありて家をたぐく
のうらなしうと一見卒和婆永離三悪道と歩ん
事をうしびこ三月の四風輩とハ方樹の嘉よ休
をうし法軍集りこのなぐさあまりか

才三十九　清拙師様

夜わうしばこ樹の嘉とかうを日ハ書がをハ法
軍勢鎧のこハ禁雁ハ池まで責うをこ鎧の
ふとを人のふ日筆をびく黄ちめぐうを石ちわ鎧おく
鎧ハ枝さうを海よりたなりて青曲の様ハどく水ハど
くみがけう鏡のどくびくうを貴を屋ハ方をけをハ

いくせんこの浮世乃ミなら源義經ハ兎角人の
鼓をも作るべくハ責のがれの事しるまじく某方ハ日本
國よりも古今先へ来る鍛冶師をもつて山の麓に
ふいごを立炭薪をたくハへかね○めさらけ焼立てへんに
いはんや其處ていかなる○のたぐひも先祖を誅の大飛と
いそ打のしぎ打ゆく何がしばらくしてハ参る人々も
何ましさへ険難なる処乃あしたにもかくなくてなしべし
又ハ去らんほ子ぎらし鍛の山の焼のがれかのそりの
中ハいかばかりしたくともひ切てやけ死ぬる
書子と儀をそし又ハいだく者をめけのかいへ命よ
これかくの責措もしいへ身がてなをとかむ者

させ給へバ此義先ずさしとりていへ伝の鍛冶
師をもとめしよせけるに鍛物師をあらためしかれハ某
ていかものをハ先山城國粟田口三条釜の六代乃鍛冶次
入道を招同孫太郎太夫徳福ら清今次大夫備中國
わざやの禪心淨覚同宗乃善し来次郎平伊勢の津乃
海老子兵衛同今市の吾人譽本大夫近江國蒲生乃
又九郎同孫九郎河内の國より渡の瑞猶同長兵衛宗之丞
下野國天明の原通継子乃岸右衛門鎌大夫越前乃
芝原の吾ら瑞楽大和國よ舟らの福五郎六左衛門
まれの大清の和泉國大島の源下籏の行孫津の國矢田
辺乃清孫孫之尉市黒鍛磨國伊奈兜のぐんじやう

数万人を亡ぼしたるでめうして法山の湯殿師高集わ上下
六万八千余人劔の山に落ち三万八千八章義となりて
東西南北小一同よ決戦するもあらんとて北とうの山
とうの海もうつぐ人に計り火煙劔よりえ付て
英火熱湯のごとくにこれを劔ハ切つてもどくるあ
と軍士三重樋といて打ちつぎたる程あの北より
おでいと吸ちこびて煙火うちあわ消ふ山北
山うぞ物よけつたうる徒者ハてあるとていわや
後相奇とやうんと板よ書て熊谷の小川のなかに
立よもり

ぬうれし劔の山をじうおく

今ぐくれの用意もあるべ
山の劔としやぐはうこまや
力めうれ作とうこうもや
焼のがるけりの人よ死らて
まるべの山ハたしべうも
或ハ山れの奇とはくしとうて極ハ山ハ劔ハ自利
わりりあ　わかりのしたつよかりのあるくはな
劔の山責よのがるごくうの本法の岩ハてもぐ
やけのうるの劔の八寸計ハ紙服指ハ旅をけると
うれいもしくるいの人のうぬやうふそとし意高行ハ
なく捨あげぬしうへと入くの人ハうぬとふハ

卒度死かしこそ、はまぢかくなりぬ
こうしよんうれしくて撓二申秘蔵ものかりひれ二申
玉々のお事静のうそはんよ色々しハかりわけを
のうく見に申ぬうくひ事ハ祖ー扇角れく
玉てこうひりかく推けるわなわ必人乃るまの
うくをかれ初代新くんけいそうにかりい一度いい
まに代ハ八こにうをもぐ〜こうひそしと祖
うけうくしうをくとハ今ぞしらふ時人ようとしを行
八見ふしを立ぬりのぞれいまし〜そんうを紀事とう
文明乃法都二条池乃小流よな夜用うてあく祖ご肩
惰ーかりあ〜とすけうる男ろ或若二三人ひ食かり

男とわく〜ろ紀侯合仕合うく新服格のゆ事とうるを
〜昔ゆうの右ざや同栖よおこまをけう祖ようら
うく河西事九ふ如ゆく〜うえそりぷ家の老と被用
利男乃まへ使ー〜いまをけるハ我ら代〜ゆづりの
ー乃服格の孫老まぐゆづりまくこうしれ面ら
事新祖雑ふしバあうハ男れ格合なわあく紙を
ふ〜変〜かりふしわ河ぬまくをれひまいりうく
あわく〜いうをゆ々しバをハうしを紙りあ〜わ
ふ〜ひ金新まで色あ〜ふれあ〜ハをしが
〜うん〜ふ紙ハうるく音格〜ふ鉛しうる
や後中こふ字二あり〜ふその字ハうてうるか

ふ字は大方丸ちりゐれどもいとやさか
ふ字ぞ同じ上は八巻月の正の字ぞ下は宗ちりの
宗代字ぞ乱れ書く秘ものがんとくは分かる
らねど去ぬ年ぞ年ぞ者代やうそう
とふらぬ初かんと云ものくどそし
らぬ初ぞ初ぞ初はの者ぞ年なとつの同利男
ゆくさくはまこひ○とかひんも角くこ家紋
と記乱して酒をめ熱のませ行ものうちあり
てくくゆくずは八分どうし同天ふく他さ
して八ねとも九寸六七寸ちる人こう先角一尺と
八分と云月八ふ乱かとうふ家代者そこ

と云ひてそもふもそもうちくあの眼拍
よなんはうあしかりあのたくうちあのそひ
もたくあのかしどあのくんはゆくふくう
なくとはいてまぢて紙幸計をちへりあれはいく
つぢくちくとんせまぢこかりひせめく一尺二三寸
ちはうくんはを天ふはあうく赤質角くとそ
ふ家者くはまぢちこ二日浴をつまだりてく代服拍て
んをちの上の拍ちの黄やうあくみのか赤拍ふあ
くゆ中ごとそしば栗代どく白家くちあのちくづく
しくんくあ一日くとかはとか辺でも質角れものとと
かりひ入て云ちわくくはなとまたちくく

しきてあるりしいぐなしばりやしかりひ黄金
十枚をぐふ付ちうてうわ代家へゆづりわしと生よ
さてうしをなりうび是とれ方よらうこ物こ涙
くして寶よせよらうく十枚かぐやわしばこ家ちへ
うてうけかぐうび是程よハ釈へ代わてかぐ山ちへ
わりつまたくれさうぐ山ようう生し初よぬまぐこうう
といつの驚るごちまよりてうてうこ山かしきてあ二そへ
てうやしいふとあくさいとうばとけくしてえて山りた
くぬくうくいこかへてハわうさ行けてあどとび黄金三
百枚ちわ門小ハ一柴うけても寶まぐうあとし独云
いりうく二日路と一日一夜とうあ山りてまこへかか

ゆよんを色をればあうくうふせりのくしぬあか
らハかおて参月なわしいをしてけうを腸しぬけて
そうはわ氣病しあわとありなぬわさて大検へも
うい山家りのとあうく法らんしかりの男とこ山
家りのがありいく一世へとうかぬあくうれう
あうされうかとハうやうへまをやけうざ山かあ流あれ
ぶしやくをもをれ人よ語りのくれあ山へてうへた
物代をうへれあ代わてあとしうぬまうあ代
ハうくまうりうか物よりあ色ぬ絶念とへ求なてぬ今
りを色のりのとをらしる賢されに流いえんうあ。
物觀の山ハたりへとくおまげおでいをハうけうへうも

業のあつさ消ておて又日六日中山へのがるゝ事
ひとしきりしばらくあるかと小天狗よりくりわ雷雨雷
うちつゝ斜脇の腰ぬけつゝあつさ堪ぬ丹嘉雲とゆぐ
ゆる車軸の雨湯せんうてこぶとをげいとくぬわ
くぶり熱鉄て付乃ようふうちゆるこしこかくに雨
魔王八運乃つさめる雨あり

才四十　劍山落錦本坂

去程よりんまよ八こるれ多の忠劇よ八物り
しぬさぶりちくくものとまりくしば鞭とぐ八寢
をなくしば八祢ざめぶりたしば程なぶ八鞭れつまぶく
よ話を遊し八前よなくしば居ものひ宮太子も八そ

ゝ小ゆりゆとそ八を大ゆよ寶ひけりハ八月ハ異報つ
ゝ多く生れのひゝわ八ハ多ゆこけりハ世界ハ
ゝ多わ八宝留さく二ゆ余歳かりふ事ぬゆ蓄し
わ八月ハいまざ十有八ゆく多しばゝあゝハ頭泳
図と儲りゆ世界乃あゝじやなん事乃こけゝく
ま山かもひこね年月とゝぞふゝ計ゆくゝ。
かゝしハざ留事乃ゆ来てうこ
いこぶうゝそ八ゝりけま。世よ生をうくゆむ八十二
報ゝ八人鬼の報いふよ及ば。同生をうけ同ゝ乃高
報ゆくを知ゝ八語りゝ八。大子八車と引牛八後羅錦
繡ゆくかざり。雜ゆと員牛八苦痛をゝ乃ゝ

うるくなりて金銀の鞍とうれ舎人あまたさ守護する
馬乃ちるふ。重荷と負こあり。そを見るそれ須弥
山の高さ十六万由旬のぬるなりそれよ三界の
欲界又界。無色界なり帝釋天の居所とハ喜見
城しとて。東南より次生洲ある。西ハ牛貨洲ある。日月
八人月八種あり。四方由旬よりあり日輪の廣さ八百
里有月宮殿ありて界を照しまふ。須弥よ四列あり
東ハ提婆提人ある。又百象南瞻部洲人ある。二百象ハ
ましく老の不定こ。西瞿耶尼人ある。三百八十象。小倶盧
洲人ある。一千象なり。三十三天の頂上ハ那相非非想
天しこ云。命八万大劫生。色刑をなくん精玉ハ

是を命ハ限りあるこ。そこくも後のもこうふあ。仏
のまもりハ極楽世界して命無量なり。生安楽国
ハあるん限りハ須弥国のいのちし無量なり。なを
しこ。なよむもしかるこ。ふまざういうりとせ
ど童姿あるくもくうこ。あげちつして。路頭よこ
よひ命こへまぐ不定なり。九ハ行ゆづりあくせ
ちくくハ三ともなるこ。なりしらし。無量歟よそ。
百子ハ宮殿生方位の獄見よあるこ。須弥山
ハ廣さこ。あるこりて。むしかげ栄花とこある
らバ。かるこ。ハ。あるまぐ死よはこかれ太子ぐかい
こあるこ。郎。九無量歟あるくん。九を角しあくん。八

つまこれ太子と跡よ弥してハ[illegible]りしなり同みちにハ
まくやかりへハむざんなりし。行ゝせんとかりひさぐあ
ゝ[illegible]うちよ。夫中央病しなり。疫ハ野もわこ
眼さへくらしなくなくとわ。寺を建一ハ大きを
せちよ四ゝ少なちゝ人の釈ハ[illegible]ハやゝにわ孫た
子とかりかたよ由ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
らまきたれ見ゝ[illegible]ハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝやうよ人のかりぶ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ
かゝを[illegible]ハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ
ふハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]
ふハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]

胸の中よ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

月に生れうくるかたちの中より八神よりそれぞれかしこ云
八又玉勇猛の形たり。眼耳鼻舌身意これ六根。
六塵しゃ八色聲香味觸法なり。八常しゃ八仁義
禮智信なり。世ゝに惡いづれか惡なり。父母の
惡。流生の惡。是なり。世ゝに惡いづれか惡なり。父母の
中おしく父母の惡しそ。釋尊の既より母摩耶那
夫人の孝養ぞくあり。忉利天よりわが阿ごんの法
をとくに母摩耶夫人の恩德深さをもとし
給ふ。喜提の漢文帝。まかりて
よくぐわの母に仕へ僧湯榮ありてこれ
をひとり。母よりそなへなりあまふ。壽永八年とうり

て歌の孝養といふ。楊香を紙牙と虎よあらへて
又ていふ。陸績は六歳あり。袁術とあそれ。袁術
と会せし歌よりはじまる。唐の高祖群臣とともに
菊蒲菊とたまふ。皆これと食べ陳叔達と云ふ。一人
是を食せずして懐中に帝を故と問ふ。対ふ
遺ていふ。孔子の門弟なり。
歌ひとめ系とうく員塩ゆとるりごれ皆又母氏
とかうぜんさあなわ太子おは生ーるくるわ来又
母養育いくこくれおそれと義世のおそれと付恩義
よ生あるれ恩慎忘れ世のかを人子世界よりもむと
ひはいづくとてうさもげひるるいやうふまでの

れ歌わさうぐ孝よ唯今大王れ給らもーれことの
来生ーくーわとれさせのふかし涙とかーーとせ
多へはぞ孝男女涙よりれくれれ座をもげまわるり
ーあなれ乗ーなかぞ歌ひはーけーーとれ徹ひふとて焼のが
当ーれふなどーなくー十方よりあ黒けーりとのいーうと
ていーーれかーーくなりー後ーー早矣ーるあれまり
れ母ーふひ所よりも分て者れ至処あり。本陰出ーが
くれよものーくーみまでてあまーれはーふ下ーーーぎ
まーく母要変ーはーーもー坂ーーーあまで夜ーーが
くーわーーひふ歌ひふ孝ーーーーあーーーーるーーー
ーーべーふまーて火煽ーーーれ撫ーーあーーーーー

びんをつかつてハ通れたり。おこんものいふく
わをさしれ、ふし蔵行行よ大王ハいつえあくらん。
太子ハあるすが姫君ハ鬼面をいうふし勅宣ハ
ぞくりはぐるものもなくよ太子ハ思しめされ
代仕しハいつくへすくていまざれ蔵なれどこん
ど太子ハあく海へ出給へハ姫君御鬼面へとハつて出
せるハ思ぐれひまもわ
重代と形ひはりの山ハ猪
のくれぐるをふ山あるく猪ものも
わくよ宮ひくれぞ太王ハうさかぐくんとか
くくわあふく来るし
なくひくなくなぐわ蔵

りのひやりく。弘誓ハ漆黒通寺と云右衛門よりく
き入門ぐくくあ。とくかくくとて。義くせのふハ
んの門おりひやりてをいるくくや大王ハさびく
やおがくくくくんあかくくれ伯ハ九王ハ
問をの男小立ぐれりのぐやく年来かりひハ
くかの宮宮獄卒ハ数多踏ハくてはるぐやぐそふ
ぐちりををくかやくんぐくくがれらハひぐ
くくく蔵行つくんく新宮ハ定をりれハ代の獄卒ハ中
よ結ハ及くくるものあわりてハ蔵よあくやとけるを
ををつくハ蔵行てをぐくくくくりりてをのまく
立場の一同よ中合をかやくハ三ヶ世界よをくんかくれ

なる紀大王の門前にはりあせる矢一筋射ゆるものこゝ
にくるれ先かとあげ高らかにはげしくさけ
ぶ。はるかとよりて。三方衆鬼の中にあた大王の門命金ふまし
ぬさけぶ。はるかく作おさ門屋。ちらとかくてなりこせ
ばちぐ。同乃門迫よりさんしさひきりこかをの
ぐ。千方ちりぐれ入毒の矢ぐれ敵のうらく
ぐりて入毒の矢ぐれちりことゆわ矢あるよゆくぐ
我ひ矢ぐひ振ぢさ。おこ打てぜんちうぢさめれハ
おもふぐらさらちぐ。我しかうぐどうらぐ。或ち股
紀切毒矢乃四へらび入へ一鬼をのこらび死ゆこか
うゆ上ぐれぢ。大王ぢ門あらぐとなぐさせるよ

八之終